

三・三〇三里塚現地集會に

全力結集を決意!



幕張支部は、三月十八日第二回定期大会を開催した。大会は本部から関川委員長、水野、林、高橋執行委員が出席、連帯の挨拶に、国労松井分会書記長、国関労 千葉車両整備会社労組・関委員長から挨拶をうけた。議長に菅井氏(本部検査分科会長)を選出し、討論を経て運動方針、財政方針を確立し、力強く80年180年代の闘いにむけ出発を開始した。大会は、一年間「本部」反動分子との激闘をかちぬき、三里塚・反合ストライキ・減産を闘い、つぎは自信と確信がみなぎるものであり、激動の80年代にチャレンジする戦闘性にみちた大会としてかちとることができた。

俺たちの動労千葉

白井支部長は、挨拶の中で「79年の一年間はなにか一度に5、6年の苦労を経験したような感じである」と感想をのべた。大会に出席した代議員・傍聴者70名も、しみじみと激闘の一年間の歩みとそれにうち勝ってきたことの大切さをかみしめた。

動労千葉は組合員一人一人が闘う多くの仲間と手を取りあい血みどろ、汗みどろになって闘い、建設してきた共同の財産でありなにももってもしつかりと胸にきざんだ。

一年間の激闘を勝利させた三つの根拠についてまとめると、大むね次のように言える。

- ①闘う人民の敵「本部」反動分子との間には妥協はないこと。人民の正義と大義を守るためには決然と闘うという労働者意識がみなぎっていること。
- ②三里塚や狭山を闘う最も先進的な労働者人民との連帯を堅持してきたこと。
- ③労農連帯・35万人体制粉碎を柱とするわが動労千葉の方針の正しさである。

戦争と圧制、合理化と対決できる労働運動を!

今日ほど、反戦・反合理化闘争に全力を傾注しなればならない時はない。確かにこの道は容易なことではないが、人間らしく生き、明るい職場を守り発展させるためにも一致団結し、闘わねばならない。労働運動の右翼的再編に抗し、それと

決別し力強い人民の闘いが三里塚を結節環として創造されてきている。動労大改革、三里塚労農連帯、反合、春闘を、闘い、新しい時代を切りひらく、労働運動の創造のため、奮闘することが幕張支部二〇四名の、気概である。菅井議長「三・三〇全力で三里塚に行こう」という訴えを確認し、大会を閉じた。

県交運春闘討論集會へ 17名参加

3月18日千葉県医療センターホールで、県交運春闘討論集會が開催された。集會には県交運加盟単組の仲間90名が結集し、動労千葉からは17名が参加した。千葉県労連議長、社会党代表からのあいさつをうけたのちに、全交運事務局次長甲斐国三郎氏の「80春闘における交通政策要求課題と取組みについて」と題した講演をうけ、県交運としての80春闘体制の確立をはかった。

二期工事阻止・懐柔策粉碎・飛行阻止・廃港へ!
3.30 三里塚空港廃港 全国総決起集會
正午 三里塚第一公園
10時 成田運転区
全支部で全力結集体制を確立しよう!